大腸がん検診

大腸がん検診（便潜血反応検査）の実施成績

東京都予防医学協会検診検査部

はじめに

東京都予防医学協会（以下，本会）では，1986（昭和61）年より便潜血反応検査による大腸がんのスクリーニングを実施している。そして，1次検査で陽性となった要精密検査対象者には大腸がん追跡調査用紙を配布し，受診した提携先医療機関またはそれ以外の医療機関より精密検査の結果を返信していただく追跡調査システムを実施している。本システムの対象は職域検診，地域検診，人間ドックである。

便潜血検査は，抗ヒトヘモグロビン・マウスモノクロナール抗体を利用した金コロイド凝集反応により便中のヘモグロビンを測定する免疫比色法（和光純薬社）で，大腸内の出血の有無を調べる方法である。1日のみ採便する1日法と2日間採便する2日法があり，検査委託団体や健康保険組合との契約により異なる。また，検体は基本的には検診時に回収しているが，10月中旬～2月に実施する一部の事業所では郵送による回収も行っている。

本稿では，2014（平成26）年度の大腸がん検診の実施成績と結果について報告する。

受診者数と年齢分布

2014年度の検診区分別・年齢別受診者数を示した（**表1**）。大腸がん検診総受診者数は男性24,899人，女性16,868人の計41,767人で，男女比は1：0.68と男性が多くなっている。しかし検診別にみると，職域検診での男性比率は63.0％，同様に人間ドックでは69.3％であるのに対し，地域検診では逆に女性が74.0％と多かった。これは例年と同じ傾向である。検診区分としては職域検診が30,767人（73.7％），地域検診は4,840人（11.6％），人間ドックは6,160人（14.7％）であった。

受診者数の年齢分布は，いずれの検診区分においても男女ともに40～49歳が多く，職域検診と人間ドックでは50～59歳，地域検診では60～69歳が続いていた。

表1　検診区分別・年齢別分布

（2014年度）

検診区分	性別	年齢区分 ～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～	総計
職域	男性	183	2,371	6,868	5,925	3,312	583	133	19,375
	女性	270	1,639	4,408	3,275	1,404	341	55	11,392
	合計	453	4,010	11,276	9,200	4,716	924	188	30,767
	（%）	(1.5)	(13.0)	(36.6)	(29.9)	(15.3)	(3.0)	(0.6)	
地域	男性		18	406	247	310	214	63	1,258
	女性		117	1,410	765	857	374	59	3,582
	合計		135	1,816	1,012	1,167	588	122	4,840
	（%）		(2.8)	(37.5)	(20.9)	(24.1)	(12.1)	(2.5)	
ドック	男性	12	758	1,486	1,291	609	92	18	4,266
	女性	10	305	761	534	239	40	5	1,894
	合計	22	1,063	2,247	1,825	848	132	23	6,160
	（%）	(0.4)	(17.3)	(36.5)	(29.6)	(13.8)	(2.1)	(0.4)	
全体	男性	195	3,147	8,760	7,463	4,231	889	214	24,899
	女性	280	2,061	6,579	4,574	2,500	755	119	16,868
	合計	475	5,208	15,339	12,037	6,731	1,644	333	41,767
	（%）	(1.1)	(12.5)	(36.7)	(28.8)	(16.1)	(3.9)	(0.8)	

受診者数の推移

2010年から2014年までの検診区分別受診者数の推移を示した（**図1**）。前年度と比較すると全体で5,060人（10.8％）少なかったが，2012年度と比較するとほぼ横ばい状態となっている。

検診結果（表2）

職域検診での便潜血反応検査の陽性者数は2,085人，陽性率は6.8％であった。1次検診結果の要精密検査者数は2,011人，要精検率は6.54％であった。追跡可能数（追跡調査により精密検査結果が把握できたもの）は536件，追跡率は26.7％であった。大腸がん発見率は0.026％（男性8人）であり，陽性反応適中度は0.40％であった。

地域検診では便潜血反応検査の陽性者数は332人，陽性率は6.9％であった。1次検診結果の要精密検査者数は332人，要精検率は6.86％であった。追跡可能数は172件，追跡率は51.8％であった。大腸がん発見率は0.103％（男性1人，女性4人）であり，陽性反応適中度は1.51％であった。

人間ドックでは便潜血反応検査の陽性者数は433人，陽性率は7.0％であった。1次検診結果の要精密検査者数は402人，要精検率は6.53％であった。追跡可能数は117件，追跡率は29.1％であった。大腸がん発見率は0.032％（男性2人）であり，陽性反応適中度は0.50％であった。

追跡可能であった825人の精検結果の内訳は，大腸がん以外では大腸ポリープが最も多く，次いで痔核，大腸憩室症，炎症性腸疾患の順であった。その他としては粘膜下腫瘍，非特異性腸炎などが報告

図　検診区分別受診者数の推移

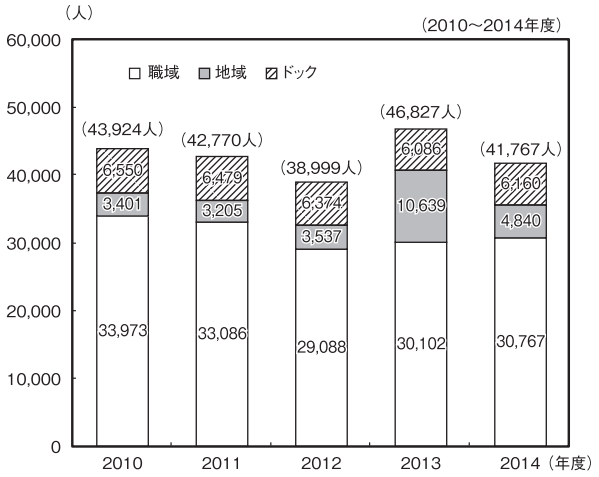

表2　検診結果

（2014年度）

検診区分	判定性別	総受診者数	便潜血検査陽性数	1次検診結果						追跡可能数	精密検査診断結果							大腸がん陽性反応適中度
				異常なし	要観察	要精検	要治療継続	要再検	判定保留		大腸ポリープ	大腸憩室症	炎症性腸疾患	痔核	異常なし	その他	大腸がん	
職域	男性	19,375	1,414	17,921	17	1,386	30	17	4	368	192	39	7	28	71	23	8	
	女性	11,392	671	10,694	9	625	9	52	3	168	48	13	2	16	75	14		
	合計	30,767	2,085	28,615	26	2,011	39	69	7	536	240	52	9	44	146	37	8	
	（%）		(6.8)	(93.01)	(0.08)	(6.54)	(0.13)	(0.22)	(0.02)	(26.7)							(0.026)	(0.40)
地域	男性	1,258	96	1,161		96			1	45	31	3		3	6	1	1	
	女性	3,582	236	3,343		236			3	127	49	7		21	39	7	4	
	合計	4,840	332	4,504		332			4	172	80	10		24	45	8	5	
	（%）		(6.9)	(93.06)		(6.86)			(0.08)	(51.8)							(0.103)	(1.51)
ドック	男性	4,266	308	3,952	10	297	7			86	35	6	2	9	27	5	2	
	女性	1,894	125	1,768	4	105	1	16		31	10	2	1	2	13	3		
	合計	6,160	433	5,720	14	402	8	16		117	45	8	3	11	40	8	2	
	（%）		(7.0)	(92.86)	(0.23)	(6.53)	(0.13)	(0.26)		(29.1)							(0.032)	(0.50)
総計		41,767	2,850	38,839	40	2,745	47	85	11	825	365	70	12	79	231	53	15	
	（%）		(6.8)	(92.99)	(0.10)	(6.57)	(0.11)	(0.20)	(0.03)	(30.1)							(0.036)	(0.55)

（注）1次検診結果判定指示内容
要観察…腸疾患あり，主治医の支持に従って経過を観察してください
要治療継続…腸疾患あり，主治医の指示に従って治療を継続してください
要再検…生理による影響など診断を確かめるため，再度検査を受けてください

されている。また追跡調査においては，追跡結果数は2013年度より55件増え825件となったが，非提携先からの返信数が419件（50.8％）で，提携先からの返信数406件（49.2％）を上回っていた（**表3**）。

（文責　森　郁子，小野良樹）

表3　追跡調査について

（2010～2014年度）

		年　度	2010	2011	2012	2013	2014
男性		追跡結果数	531	548	495	500	499
	返信数	提携先	308	314	278	277	245
		（%）	(58.0)	(57.3)	(56.2)	(55.4)	(49.1)
		非提携先	223	234	217	223	254
		（%）	(42.0)	(42.7)	(43.8)	(44.6)	(50.9)
女性		追跡結果数	223	242	295	270	326
	返信数	提携先	118	134	172	141	161
		（%）	(52.9)	(55.4)	(58.3)	(52.2)	(49.4)
		非提携先	105	108	123	129	165
		（%）	(47.1)	(44.6)	(41.7)	(47.8)	(50.6)
合計		追跡結果数	754	790	794	770	825
	返信数	提携先	426	448	450	418	406
		（%）	(56.5)	(56.7)	(56.7)	(54.3)	(49.2)
		非提携先	328	342	344	352	419
		（%）	(43.5)	(43.3)	(43.3)	(45.7)	(50.8)

発見された大腸がんの特徴

2014年度に発見された大腸がんは15人であった（**表4**）。内訳は男性11人，女性4人で，男女比は1：0.36であった。早期がんは12人（80.0％），進行がんは3人（20.0％）であった。発見がんの特徴について**表4**に示した。

表4　発見がんの特徴

（2014年度）

	早期がん	進行がん
発見数	12人	3人
〔組織型別〕		
腺がん	12	3
〔肉眼分類別〕		
0-Ⅰp	4	
0-Ⅰps	4	
0-Ⅰs	2	
0-Ⅰs+Ⅱc	1	
0-Ⅱ	1	
2型		3
〔深達度別〕		
M	8	
SM	2	
MP	1	1
SS		2
不明	1	
〔病期別〕		
0期	8	
Ⅰ期	2	
Ⅱ期		1
Ⅲa期		1
不明	2	1

まとめ

2014年度の大腸がん検診受診者数は41,767人と前年度より5,060人（10.8％）少なくなっているが，本会は依然として都内における有数な大腸がん検診実施施設である。そのような中で本会で実施している大腸がん検診の問題点をあげるとすれば，それは大腸がん検診の重要な精度管理指標である精検未把握率が高いことである。

本会の精検未把握率は70.0％（許容値10％以下）と異常に高く，これががん発見率0.036％（許容値0.13％以上）や陽性反応適中度0.55％（許容値1.9％以上）の低さの原因にもなっている。大腸がん死を減らすには正しい検診（有効性が確認された方法）を正しく行う（精度管理指標を守る）ことが重要であるが，2014年度に本会で行った大腸がん検診の実施成績をみる限り，有効な大腸がん検診が行われたとは言い難い。

そこで精検未把握率の低減を目指し2015年4月に始まったのが，全大腸内視鏡検査である。現在はまだ，年間の実施件数は約700件と，精検未把握率を20～30％低減させるに留まるが，今後実施件数を増やすことができれば精検未把握率のさらなる低減に寄与し，最終的には有効な大腸がん検診にも繋がるものと期待される。

（文責　松島病院　鈴木康元）